

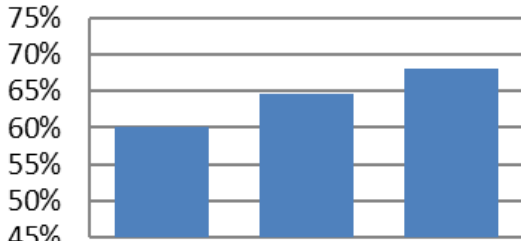
令和3年度全国学力・学習状況調査

調査結果から（小学校）

令和3年9月 東村山市教育委員会 指導課

【国語】

<平均正答率>



<課題点>

「書くこと」では、「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが
ら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に課
題が見られた。

また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、「文の中にお
ける主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係を捉えること」
に課題が見られた。

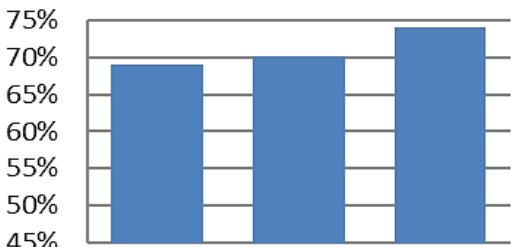
<手だて>

「書くこと」では、目的や意図に応じて理由を明確にしなが
ら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるよう、
書く内容を小見出しにして付箋等へ書き、事実と感想、意見と
を区別するとともに、それらを整理しながら文章全体の構成や
展開を考えて書く活動を取り入れることが重要である。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、文の中における
主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係を捉えることがで
きるようにするために、各領域の言語活動と関連させて学習す
ることが重要である。その際、児童が自分で書いた文や文章を、
主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に注意しながら、
丁寧に読み返す活動を取り入れることが大切である。

【算数】

<平均正答率>



<課題点>

「数と計算」では、「小数を用いた倍の意味について、数の表し方
の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現すること」
に課題が見られた。また、「図形」では、「三角形の面積の求め方を理解
すること」や「複合図形について、図形を構成する要素などに着目し、
図形の構成の仕方を捉え、面積の求め方と答えを記述すること」に課
題が見られた。

<手だて>

「数と計算」では、小数を用いた倍の意味について理解でき
るようになるために、商が1より小さい場合の除法について、
商の意味を考える活動を取り入れることが重要である。商の意
味を考える際、「基準量を1としたときにいくつに当たるか」図
を用いて視覚的に捉える活動を取り入れるよう工夫することが
大切である。

「図形」では、公式を用いて図形の面積を求めることができ
るよう、公式を様々な問題解決の場で適用するなど、基礎的・
基本的な知識及び技能の定着を図ることが重要である。また、
図形の構成についての見方を働かせ、図形を捉えることができ
るようになるために、図の構成要素に着目して式を表したり、
図と関連付けて式を解釈したりする活動を様々な学年で行うこ
とが大切である。

全体的な傾向として

国語、算数ともに東京都及び全国の平均値を下回った。国語では、「書くこと」において、目的や意図に応じて、理由を明確にしなが
ら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題で無回答が多かった。その課題を解決するためには、文の種類に応じて話
型を活用しながら書く活動を通して、児童が自分の考えを明確にして相手に分かりやすく伝えるための言葉の使い方や表現方法を理
解していくことが重要である。算数では、「データ活用」において、複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を
記述する問題で無回答が多かった。児童が身近な生活における興味や気付きなどから、判断や考察したいと思う事象を問題場面として
設定していくことが重要である。また、複数のデータを比較する際、「全体と部分」や「部分と部分」等、観点を決めて調べ、デー
タの特徴や傾向を捉えることができるように、発問や学習活動を工夫していくことが大切である。

<生活習慣や学習状況等に関すること>

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」や「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童は国語、算数と
ともに正答率が高い傾向にある。「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に肯定的に答えた児童の割合
は、70%であり東京都の平均とほぼ同じであった。「自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は73.7%であり、東京都
と比べ1.4ポイント低い傾向が見られた。
- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりの勉強時間が1時間より少ない」（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わって
いる時間も含む）と回答した児童の割合は、一昨年と比べ3.4ポイント増加している。全体の40.1%を占めており、そのように
回答した児童は、1時間以上と回答した児童に比べ、教科に関する調査の平均正答率が低い傾向にある。
- ・「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使った
ゲームを含む）をしますか」という質問では、実施時間が増加するにつれ、教科に関する調査の平均正答率が低くなる傾向にある。
- 友達との意見交流において児童自身が多様な意見に触れることで考えを広めたり、深めたりすることの楽しさを実感することが
できるよう、ICTを活用するなどして、協働的な学びの実現を図ることが大切である。「家庭学習」において、自分で計画を立て
て学習に取り組む習慣を身に付けるとともに、タブレットドリル等を活用して、自己の課題に応じて学習に取り組むことができ
るよう、学校と家庭が連携していくことが大切である。その際、「家庭教育の手引き書」を活用し、家庭におけるSNS利用ルールやテ
レビ・ゲームのルールについて家庭で話し合い、保護者会を通して、意見交換をし合う取組を支援していく必要がある。